

プレス・リリース 速報

沖縄「大浦湾チリビシのアオサンゴ群集」 白化と疑われる状況が観察され緊急調査を実施する

沖縄県名護市「大浦湾チリビシのアオサンゴ群集」において、2009年9月28日沖縄リーフチェック研究会会員による調査の際、**白化現象が疑われるサンゴの点在していることが観察された。**10月10日～12日、日本自然保護協会、沖縄リーフチェック研究会などの合同調査団体による現地潜水調査を実施し、アオサンゴ群集の状況を把握し原因究明と保全に役立てる予定である。

- 提供資料 別紙 白化が疑われる写真（沖縄リーフチェック研究会撮影）
データを希望する社は下記問合せ先へ

*10月12日現地調査の終了後に、名護市汀間漁港にてブリーフィングを予定。
同行取材は事前問合せのうえ、備船・タンク等は各社手配。

●コメント

天然記念物的価値をもつ「大浦湾チリビシのアオサンゴ群集」が何らかストレス（環境変化）による白化現象をおこしている可能性が考えられる。現状を正確に調査し、経過のモニタリングと合わせ状況を分析していきたい。

普天間飛行場移設事業にかかる準備書において、埋立ての影響はないとしている前提を科学的に見直す必要がある。

●解説「白化現象とは・・・」

サンゴ礁を衰退させる大きな原因の一つとなっている「サンゴの白化現象」とは、造礁サンゴが組織内に共生する褐虫藻を失ったり、組織内の褐虫藻の色素が失われることによって、透明になったサンゴ組織を通して白い骨格が透けて見える現象を言う。サンゴはエネルギー供給を初め、様々な生理作用までも褐虫藻の光合成に依存するので、白化した状態が長引くと衰弱死する。一般には季候変動に伴う高水温の影響がよく知られているが、様々なストレスによって引き起こされる。オニヒトデやある種の巻き貝（シロレイシガイダマシなど）による食害や進行性の病気などで組織を失い、骨格がむき出しになった直後もその部分は白く見えるが白化現象とは言わない。

●経緯

*詳細情報・アオサンゴの価値については、下記団体のホームページに掲載。

2007年9月	通称「チリビシ」で大規模な群集が発見される
2008年1月	沖縄リーフチェック研究会の予備調査により位置・概況を明らかにする
2008年3～5月	日本自然保護協会・WWFジャパン・沖縄リーフチェック研究会・国士館大学地理学教室・じゅごんの里による合同調査を実施
2008年7月	環境省記者クラブにて調査レポート（速報）を発表・会見
2008年秋	IUCNレッドリスト2008で絶滅危惧Ⅱ類に指定される 日本サンゴ礁学会にて、石垣・白保とは異なる単一な遺伝子しかもたないことが発表される
2009年9月7日	地元団体で沖縄県議会に天然記念物指定の要請を行う
9月28日	シンポジウム「アオサンゴを天然記念物にしよう！」 （主催：沖縄・生物多様性市民ネットワーク）開催し県議会議員も含め約100名参加

■問合せ先

日本自然保護協会 保護プロジェクト部 <http://www.nacsj.or.jp/>

沖縄リーフチェック研究会 <http://reefcheck.net/>

■緊急メッセージ：この緊急調査活動には小型船舶の燃料費、専門家の派遣費用や計測機器が必要で予算が不足しています。多くの方からのご支援をお待ちしております。

寄付先：（郵便振替口座）口座番号：00160-8-763755 加入者名：NACS-J自然保護寄付

別紙

*2点とも

提供：沖縄リーフチェック研究会（2009年9月28日撮影）

